

次の文章を読み、あとの問1～問5の問いに答えなさい。

「先進国」では「^(注1)IT革命」が急速に進んでいます。IT^Aというのは「information technology」つまり「情報(通信)技術」のことです。

確かにITをはじめとするさまざまな文明の利器の発達により、^著とは比較にならないほどの容易さで、多量の情報を得ることが可能になり、その結果、現代人は^著の人間とは比較にならないほど多量の知識、情報を持っています。

いままでに人類が獲得した情報収集手段を歴史的に、また極めて概略的に列挙しますと、直接観察・見聞→書籍→ラジオ(音声)→テレビ(音声と映像)→インターネット(マルチメディア)となります。これは、そのまま、情報収集の(B)と(C)の向上の順番です。

まず、書籍のお蔭^{かけ}で私たちは時間(時代)と空間(地域)を超えた情報を得ることができるようになりました。さらに、活字と印刷術の発明は情報を量ばかりでなく、時間的、空間的にも著しく拡大したのです。そして、テレビは人類の知識量を飛躍的に増大させました。最近では、パソコンあるいは携帯電話を通じてインターネットを利用すれば、ありとあらゆる情報が瞬時に、極めて容易に得られるようになっていきます。

しかし、^D人間の脳の活動と情報の意味化において、文字メディアとテレビのような映像メディアとは根本的に異なります。

文字メディアの場合、まず文字を、そして読むことを学び、習得しな

ければなりません。また、文字というそれ自体は具体的な像を持たない記号の羅列である文、文章から場面や状況や内容を自分自身の頭の中で具体化しなければならないのです。自分自身による想像、組み立ての作業が必要なのです。そのためには心の眼が不可欠です。

ところが、テレビのような映像メディアは、具体的な像を音声つきで与えてくれます。自分自身による想像のような作業は不要なのです。したがって、その分、知識の増量は容易で迅速でもあるわけです。

この想像の作業が必要であるか否かは、脳の活性化、^E智慧の発達^{ちえ}のことを考えれば、決定的な違いです。IT^Fの発達によって、人間は

知識を飛躍的に増したのですが、それに比例して智慧を低下させたように思われるのです。智慧は自分の頭で考えることによって身につく能力だからです。ちなみに知識は「ある事項について知っていること」で、

智慧は「物事の道理を悟り、適切に処理する能力」です。

もちろん、情報収集手段が直接観察・見聞や書籍などに限られていた^著は知識の^(注2)多寡がその人物の価値を決める大きな要素でした。

ものの知^りは大きな価値を持っていましたし、尊敬もされました。しかし、現在のようにITが発達した社会では、知識の多寡については、人間がどのように頑張っても、膨大な記憶量をもつパソコンやインターネットに絶対^{かな}に叶わないのです。つまり、人間の価値として、知識の多寡は大きな意味を持たないのです。人間の価値は智慧の多寡にかかっているのです。

フランスの思想家・モンテーニュが「知識がある人はすべてについて知識があるとは限らないが、有能な人はすべてについて有能である」といつていますが、その通りです。また、ニュートンと並び称される物理学者・アインシュタインは「想像力は知識よりも重要である。知識には限界があるが、想像力は世界を包み込むことさえできるからである。」といつています。

私は、みなさんに、世界を包み込むことさえできる想像力、物事の道理を悟り、適切に処理できる智慧を身につけていただきたいと思うのです。

（志村史夫『文系？ 理系？ 人生を豊かにするヒント』による。なお、一部表記を改めたところがある。）

（注１） ITという言葉は、これに通信（communication）を加え、最近ではICTと表現することが多い。

（注２） 多寡Ⅱ多いか少ないか。